

清水町総合計画審議会 会議録（要約）

日時 令和3年3月29日 19時00分～20時36分

場所 清水町役場庁舎2階 庁議室

【出席者】

委員：丸山良三、残間一憲、氷見隆雄、宮澤真二、和田聡明、桑尾達也、
上谷明美、林緑
(欠席：尾崎俊明、表裕一郎、高橋利幸、梶深雪、伊藤亜砂子、寺内麻紀、
大東孔美)

事務局：企画課長（前田真）、企画課長補佐兼統計企画係長（川口二郎）
政策企画係長（田村幸紀）、政策企画係主事（木村翔）

傍聴者 0名

記者 0名

1 開会

2 町長あいさつ

お忙しい中、清水町総合計画審議会にご出席いただきありがとうございます。

清水町人口ビジョン・総合戦略は第5期総合計画と連動しながら平成27年度に策定しましたが、今年度で6年間の期間を終了となります。毎年5月末に総合計画審議会において、前年度分の実施事業評価をしていただいておりますが、本日の審議会では新たに令和3年度から令和7年度までの5年間の計画期間とする第2期の清水町人口ビジョン・総合戦略を策定するにあたり意見を賜りたく開催するものです。

清水町の令和2年度の人口動態は2月末現在で社会増減が40人の増、自然増減が74人の減、合計34人の人口減となっています。令和元年度は全体で116人の人口減であったため、昨年度と比べ減少数は減る見込みとなっています。

清水町をはじめ十勝は他地域よりも人口の影響は少ない地域ではありますが、それに油断することなく、結婚少子化対策から子育て支援、住宅政策など更に進めていかなければならないと考えております。

原案の内容については、第6期総合計画で定める施策の中で人口減少、地方創生に対応するために重点的に取り組むべきものを示しています。詳しくはこの後事務局より説明いたします。

この原案について2月22日から一か月間パブリックコメントを実施し、意見提出はありませんでしたが、本日のご審議のなかでいただいた意見等をしっかりと反映させていきたいと思っています。慎重審議のほどよろしく願いいたします。

3 会長あいさつ

本日は何かとお忙しい中、清水町総合計画審議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

今年度は総合計画の策定もあり、例年より多い開催となりましたが、本日で今年度最後の総合計画審議会となります。

本日の議題となります、人口ビジョン・総合戦略は人口減少問題の対策となるものであり、今後の清水町の活性化に大事な計画であると認識しています。

皆さんからの活発な意見をいただき本日の審議会を円滑に進めて参りたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

4 諮問

5 協議事項

(1) 第2期清水町人口ビジョン・総合戦略(案)について

(事務局より説明)

(2) 意見交換

(残間一憲)

今回の総合計画に関しては非常に多くの町民からの意見を集約している。それに則った総合戦略となっているため、中身についての意見はない。KPIだけで判断するのではなく、総合的な見方で結果を見ていただきたい。1年や2年ではなく、細かいスパンでチェックをしてほしい。新体育館について、具体的にどこに建設されるのか。町の候補があれば教えていただきたい。また、防災拠点の役割を入れてほしい。清水公園について観光拠点及び憩いの場、子どもの遊び場としての機能が必要と考えているが、現在の計画について情報提供していただきたい。道の駅について、大型店に代わる商業施設としての役割も必要とされるのではないかと思っている。町の方針について決まっていることがあれば教えていただきたい。

(前田課長)

新体育館について場所は決まっていないが、現在の体育館の敷地面積を確保することを前提にすると、ホクレンのイベント広場、町民野球場の隣の元テニスコート、第一保育所跡地の中から選ばざるのではないかと思う。これ以外の候補地を検討する際には民間の土地を購入することが必要となる。この中から住民の意見を取り入れて、1番効率的な場所を選ぶこととなると思う。4月から無作為抽出を利用した体育館建設の検討委

員会を立ち上げていろいろな意見を取り入れながら進めていきたいと考えている。アンケートでは体育館を利用していない人が75%もいたため、体育館を利用していない人の意見も聞きながら、規模等を検討していきたい。防災拠点としての役割は必要と考えているため、浸水区域からは除外したいと思う。具体的な規模、機能等はこれから検討を進めていく。清水公園については、体育館の跡地利用も含めてこれから考えていくため、来年度は清水公園の予算はとっていない。来年度は清水中央公園と御影公園の遊具の再整備を進め、子どもが遊べる環境を整えることとしている。道の駅については、町長の考えでは清水市街と御影市街にそれぞれ1つずつ作りたいという思いはあるものの、まだ何も決まっていない。道の駅や清水町の魅力を伝える情報発信拠点が重要という町民からの要望が多かったため、道の駅の必要性や規模についてはこれから検討していくこととなる。3月の議会では未来の子どもたちの選択肢を狭めるような財政負担の大きい公共施設はいかかなものかという意見もある。財政の将来推計を見ながら、できるだけ効率的なものを考えていくことになるのではないかと考えている。

(林緑)

清水町の子育て支援は手厚いと感じている。若い世代が移住や定住に興味をもってもらえるよう情報発信をしてほしいと思う。清水町の魅力についてSNS等を利用して発信することでもっと広がっていくと感じている。コロナ禍の中でもできることに目を向けることでポジティブに暮らしていけると思う。役場職員が良いと思ったことにどんどんチャレンジして行ってほしいと思う。

(前田課長)

清水町のHPは来年度全面的にリニューアルを行う。より清水町の魅力が伝わる構成にしたいと思う。また、担当が直接情報発信できるようにして、イメージアップを図りたいと思っている。令和3年度予算は町民の経済活動を優先させるため、特に前半は外に出ることを控え、コロナ対策の優先順位を高くする。しかし、何もやらないということではなく、コロナ禍でもできることから進め、力を蓄える1年としたいと考えている。

(氷見隆雄)

町民にどこまで理解してもらえるかが大事と思っている。若い世代はまちづくりに関心がない。町民からの理解を得た中で進めることで事業がスムーズに進むと思っている。農協としてはにんにくのブランド化を推進していく考えであり、それによって雇用も生まれている。よりよい町とするためお互いに協力していきたい。

(前田課長)

税金の使い道については、理解の得られるような工夫をしていきたいと思う。自分た

ちがまちをつくっているという意識を持ってもらうことが、満足度の高いまちづくりにつながると思っている。たくさんの方々に1つひとつの事業を理解してもらえよう努力していきたい。農協では清水町の強みである食と農業を担ってもらっている。にんにくを清水ブランドとして推進していくことは足並みをそろえてやっていきたい。これが経済の活性化や魅力の推進につながると思っているため、ご協力していただければと思う

(上谷明美)

清水町の良さをアピールしきれていない。御影地区は空地空き家が多いため、若い世代が移住できるように空地空き家のデータベース化を進めてもらいたい。コロナ禍による経済支援は行き届いているのか。芽室町役場では総合コンシェルジュがいて、スムーズな対応だったため、清水町も取り入れる考えがあるのか教えてほしい。最近では給食の味が美味しくなくなったという意見がある。冷凍食品も多いと聞く。この点についてお聞かせ願いたい。

(前田課長)

清水町のPRについては、引き続き進めていく。空地空き家については、積極的に把握している現状ではない。新年度からは情報収集をして、データベース化を進め、不動産の管理事業の研究も進めていきたいと思う。清水町はコロナ禍による経済支援について、充実した支給を行っており、町内で経済が循環する仕組みに予算を割いている。新年度についても、町内の経済の立て直しを重点的に行うようにしている。経済全体の様子を見ながら、迅速に対応することを目標に掲げている。総合コンシェルジュがいると便利という意見は他にもあるため、検討させていただきたい。コロナ禍もあり、最短で用事を済ませられるように進めたい。給食については貴重な意見として受けとめさせていただきたい。清水町は給食にかなりお金をかけている町。給食を充実させるため、給食費以上にお金をかけて作っている。教育委員会にも伝え、検討させていただきたい。

(宮澤真二)

第1期の結果についてうまくいったところとうまくできなかったところを教えてください。各事業について、新規事業や削除された項目を表示していただくと、見やすくなると思う。人を集めるためには産業振興の充実が重要となるため、施策の充実をお願いしたい。

(前田課長)

人口推移が当初の目標を上回った理由は子育て支援策を手厚くしていることが大きな理由と感じている。社会増減という面ではうまくいったと感じている。うまくいかな

かったところは全国的に言えるが、出生数が少ないこと。結婚する人を増やす取組みや子どもを産みやすい環境を整える取組みを行っているものの難しいと感じている。合計特殊出生率が下がることで日本全体の GDP の減少にもつながるため、頑張りどころだと思っている。新規事業の表示については工夫してみたいと思う。産業振興の充実は最もな意見で、仕事についてもデータベース化することが必要と考えている。通年で仕事を斡旋できる仕組みが必要。清水町に働きに来ている人を逃さないようにしなければならない。具体的には転出者と面談を行い、商工会や農協と連携し、いろんな仕事ができる雰囲気ができれば良いと感じている。

(桑尾達也)

人口増減の原因を正しく分析することが大事だと思う。清水高校生が町内に就職できる環境を整えることは大事であるが、難しい部分でもあると思う。多様化しているニーズにこたえられる場があるのかどうか。農業以外の産業の充実が重要になるのではないかと思う。また、町民の満足度を高めていくことが大事。事業の進捗状況が広報を通じて、町民に伝えることができると良いと思う。

(前田課長)

町民が転出するときにアンケートをいただき、分析をしている。その中でも子育ての評価が高い町。仕事の関係による転出が多いため、清水町にない産業を少しでも取り入れることをやっていかなければならないと思う。新年度からはサテライトオフィス等の設置を検討していくことを考えている。多様化しているニーズにこたえられる環境を作っていきたいと思う。進捗状況の管理については、広報で行いたいと思う。新年度から住民協議会で総合計画の進捗状況の管理を行っていく予定でいる。こうした取組みの中でまちづくりの自分ごと化を進めていきたいと思う。

(丸山会長)

住民協議会で検証することで、町民の意見をくみ取っていくことは良いと思うため、ぜひやっていただきたい。

(和田聡明)

1 期目の結果を踏まえて、何が変わったのかを対比できるようにしてほしい。人口推計と実施目標と実績がこの 6 年間でどうだったのかが気になるため、新旧政策の対比や政策ごとの事業評価が見えてくると良いと思う。雇用を維持していくために、地元の事業者が継続して事業を行える環境、手助けが必要となる。総合戦略の項目の中に「本町の個性が形骸化しないように、事業や技術の継承を支援するなどの方策を検討します」と記載しているが、具体的な施策がなかったため、町として考えているものはあるのか。

(前田課長)

1期目の総括については、広報にわかりやすく掲載したいと思う。雇用については、地元の企業が維持することが一番大事と考えている。道の駅の建設についても、地元の企業が衰退しないよう、商工会と連携しながら研究していきたいと思う。事業や技術の継承については難しいところがあるが、これまでは公共性の高いものや起業について助成してきたが、従来ある飲食店など必要な社会資源を把握し、事業継承を考えていかなければならないと感じている。

(丸山会長)

ふるさと納税は市町村によって極端に納税額が違う。政策的に使える財源となるため有効性があると考えているが、清水町の現在の状況を教えてほしい。

(前田課長)

以前は毎年約6千万円の納税額であったが、今年度は1億9千万円の納税額となった。納税額の半分は経費となるが、半分は町のお金となる。このお金を使って町民サービスの向上に利用することができる。今年度はまちのあらゆる事業に使えるように条例を改正している。しかし、ふるさと納税に頼り切った設備投資は危険と感じている。今後ふるさと納税の制度が変わっていくことも考えられるため、工場で生産できる量のバランスを見ながらやっていきたいと考えている。

6 答申

7 その他

(前田課長)

次回の総合計画審議会については、5月の開催を予定しております。次回の審議内容は清水町人口ビジョン・総合戦略における令和2年度実施事業評価につきましてご審議をお願いしたいと思います。日程等については今後ご案内をさせていただきますので、よろしくをお願いします。

8 閉会

(丸山会長)

長時間、たくさんのご意見を賜りありがとうございました。本日いただいた委員の皆さんの貴重なご意見をこれからのまちづくりに反映していただきたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。